

地域社会への責任



マネジメント・アプローチ

方針とマネジメント	92
基本的な考え方	92
社会貢献活動の推進体制	92
社会貢献活動の全体像	92

課題への取り組み

教育に関する活動	94
社会見学の機会の提供	94
就業体験の機会の提供	94
従業員による授業機会の提供	94
社有林の活用	95
音楽を通じた教育機会の提供	95
スポーツを通じた教育機会の提供	96
教育現場への製品提供	96

環境に関する活動	97
生物多様性の保全	97
リサイクル活動の推進	97
地域に緑を増やす活動	97
環境教育に関する機会の提供	97

地域・社会との共生などに関連する活動	98
地域美化活動	98
地域文化の保全	98
地域の安全・防災	98
地域との共生	99
社会福祉	99
藤原科学財団への支援	99

方針とマネジメント

良き企業市民として、地域の方々に信頼され、親しまれる企業であるために、各地でさまざまな社会貢献活動を続けています

基本的な考え方

理念と基本方針を定めてグループ全体で取り組むとともに、各社・各事業所でさまざまな活動を推進しています

日本製紙グループでは、紙を広く安定供給する企業活動を通じて、社会と文化の発展に寄与しています。また、近年ではグループCSR経営に力を入れ、総合的な社会的責任を果たすとともに、企業市民としての社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。

日本製紙グループは、全国各地でさまざまな活動に取り組んでいます。清掃活動やお祭りなど地域活動への参加、工場見学の受け入れのほか、紙を通じて環境について考えてもらう学校授業の実施など地域に根ざした各種の活動はもとより、最近では、全国約9万ヘクタールに及ぶ社有林を活用した「森と紙のなかよし学校」など、グループのスケールを生かした活動にも取り組んでいます。

これからも、一つひとつの活動をいっそう充実させていきながら、グループ全体で社会貢献活動をさらに推進し、社会の発展を支えていきます。

社会貢献活動の理念と基本方針(2004年4月1日制定)

理念

私たちは社会の一員として、誇りを持って社会全体の発展に貢献する活動を行います。

基本方針

1. 文化の継承・発展に寄与する活動を行います
2. 地球環境の保護・改善に貢献する活動を行います
3. 地域社会の発展に役立つ活動を行います

社会貢献活動の推進体制

CSR体制を拡充し、グループ各社に担当者を置いて継続した活動に取り組んでいます

日本製紙グループでは、2008年6月に設置したCSR本部が中心となって、グループ全体の社会貢献活動を推進しています。

グループ各社においては、社会貢献担当者をそれぞれ選任しています。各担当者は、従来の地域貢献活動を把握するとともに、それらの充実に努めています。近年では、特に、地域社会の発展に貢献していくことを目指して、学校関係の工場見学受け入れのほか、清掃活動やさまざまな地域行事への参加・協力支援などの推進に力を入れています。

具体的な活動テーマ

- 従業員が主体となって取り組む社会貢献活動の推進
- グループ各社の工場および海外現地法人における地域活動の充実
- グループスケールで行う社会貢献プログラムの創出
- グループ各社の事業・専門性を生かした活動の推進
- 日本国内の社有林(約9万ヘクタール)の有効活用
- 従業員の社会貢献活動支援制度の構築
- 社内外への積極的な広報活動

社会貢献活動の全体像

基本方針をふまえて多彩な活動を展開しています

日本製紙グループでは「社会貢献活動の理念と基本方針」に沿って、多彩な取り組みを推進しています。その内容は、教育に関するもの、環境に関するもの、地域・社会との共生などに関するものなど、多岐にわたります。その主なものを右表にまとめました。なお、日本製紙グループの主な社会貢献活動についてはウェブサイトでもご覧いただけます。

 [社会貢献活動
http://www.np-g.com/csr/social.html](http://www.np-g.com/csr/social.html)

日本製紙グループの主要な社会貢献活動一覧※

分野	主な取り組み	具体例	記載ページ
教育に関する活動	社会見学の際の提供	工場見学の受け入れ	94
	就業体験の際の提供	インターンシップの受け入れ	94
	従業員による授業の提供	出前授業、学校授業への協力	94
	国内社有林の活用	「森と紙のなかよし学校」の開催	95
		学習林として社有林を公開	—
	音楽を通じた教育機会の提供	札幌ポップスコンサートへの児童・生徒ご招待	95
		日本製紙Museum Concertへの協賛	95
	スポーツを通じた教育機会の提供	野球教室、野球大会の開催	96
		アイスホッケー教室、アイスホッケー大会の開催	96
		一輪車の寄贈、一輪車指導者の研修会の開催	—
教育現場への製品提供	教育機関への紙の提供	—	
	教育機関への印刷物の提供	96	
環境に関する活動	生物多様性の保全	独自技術「容器内挿し木技術」の活用	44
		シマフクロウの保護区を設置	45
		「シラネアオイを守る会」の活動を支援	97
		世界遺産・吉野山の桜の保護活動を支援	—
	リサイクル活動の推進	「リサイクルプラザ紙遊館」の運営	97
		わりばし回収リサイクル事業の実施	—
		リサイクル推進団体の支援	—
		古紙回収施設の設置	—
		牛乳パック回収リサイクル	97
	地域に緑を増やす活動	植樹活動の実施・参加	44, 97
	環境教育に関する機会の提供	地球環境フォーラム(一般向けセミナー)の開催	97
		各種環境イベントへの参加	—
		環境意識啓発の支援・協力	97
地域との共生に関連する活動	地域美化活動	社有林の適正な管理による森林の多面的機能の維持	58・59
		事業所周辺の清掃活動	98
		環境整備活動への協力	—
	地域の安全・防災	子どもの安全を守る取り組み	98
		交通安全への取り組み	—
		災害時の支援協定の締結	98
	地域文化の保全	文化的価値のある桜を守る運動	—
		飛鳥山薪能の運営支援・協賛	98
	地域との共生	地域交流会の開催	—
		お祭りなど地域行事への参加・協賛	99
所有する厚生施設(体育館など)の一般への開放		—	
所有する土地の無償貸与		8	
スポーツ大会への協賛(那覇マラソン、福知山マラソンなど)		—	
夏祭り、グラウンドゴルフ大会などイベントの開催	—		
社会との共生などに関連する活動	福祉活動	社会福祉団体のイベントへの参加・協賛	99
		障害者とのスケート交流会の開催	—
		社会福祉団体の製品(ハンなど)を購入	—
		使用済み切手、使用済みカードなどの寄付、献血	—
	障害者スポーツの支援	アイススレッジホッケーの支援	—
	従業員へボランティアの機会の提供	東日本大震災の被災地へのボランティアバスの運行	8
藤原科学財団への支援	藤原科学財団への財政面での支援	99	
災害時の被災者支援	義援金や支援物資の提供など	8	

※ 海外植林地での活動はP60～63をご参照ください

教育に関する活動

工場見学や就業体験、スポーツ・芸術に触れる機会の提供など、子どもたちの学習や健全な成長に役立つさまざまな取り組みを展開しています

社会見学の機会の提供

紙を通じて循環型社会の大切さを学ぶ工場見学を受け入れています

2010年度は、11,912人の小学生、中学生、高校生が日本製紙グループ各社の工場を見学しました。

事例 親子工場見学会を開催 (日本製紙クレシア(株))

2010年12月23日、日本製紙クレシア(株)開成工場では、開成町の住民を対象とした親子工場見学会を開催しました。見学会の実施にあたっては、開成町の協力のもと町の広報誌で見学者を一般から募集し、当日は約50人の親子が工場内の見学と紙抄きを行いました。



紙抄きの様子

参加者の皆さまからは、たくさんの意見とともにお礼の言葉をいただき、良い地域交流の場とすることができました。

従業員による授業機会の提供

専門知識を生かし、次世代育成に向けた教育の機会を提供しています

事例 紙の手抄き体験教室の開催 (日本製紙(株))

2010年8月7日、日本製紙(株)富士工場では、富士ふたば幼稚園で小学生向け手抄き体験教室を開催しました。イベントには、小学1~6年生の約70人が参加し、使用済み紙容器を使ったりリサイクルはがきづくりを楽しんでいただきました。低学年の子どもたちは初めてつくるカラフルなオリジナルはがきに大満足。高学年の子は、手抄き方法を熱心にメモして「夏休みの自由研究に使うよ」と目を輝かせていました。



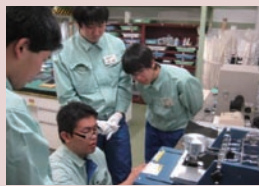
手抄き体験教室

就業体験の機会の提供

次代を担う若者たちに就業体験の場を提供しています

事例 高校生の就業体験 (日本製紙ケミカル(株))

日本製紙ケミカル(株)機能材料研究所は、2004年から、埼玉県立玉川工業高等学校のインターンシップを受け入れています。2010年度は1月に、2年生3人を受け入れ、液晶テレビやノートパソコンに使われる表面フィルムの試作を体験してもらいました。



インターンシップの様子

最初は緊張気味だったものの、次第に慣れ、最後には「開発の楽しさを体験できた」などうれしい感想を聞くことができました。

事例 Work Work事業に参加 (日本紙パック(株))

日本紙パックグループの江川紙パック(株)では、2010年12月1日、茨城県五霞町立五霞中学校で行われたWork Work事業に参加しました。

この事業は、中学生がさまざまな企業の社員に仕事や社会の話を聞き、自分の将来を考えてもらうための取り組みです。当日は26社が参加し、生徒たちは数人一組で参加企業のテーブルを回りました。江



牛乳紙パックのつくり方について説明

川紙パック(株)の席では「牛乳紙パックはどのようにつくられるの」「仕事のやりがい」など、さまざまな質問がありました。

社有林の活用

国内社有林を活用しながら
森の恩恵について伝えていきます

事例 毎年「森と紙のなかよし学校」を継続開催
(日本製紙(株)、日本製紙総合開発(株))

「森と紙のなかよし学校」は、日本製紙(株)の国内社有林(約9万ヘクタール)を活用した、日本製紙グループ独自の自然環境教室です。社有林の豊かな自然に触れ、生活になくてはならない「紙」と「森」とのつながりを体験してもらう機会を提供しています。2006年10月に首都圏の代表的な社有林である群馬県の菅沼社有林(丸沼高原)でスタートしました。

「森と紙のなかよし学校」は、プログラム全体を従業員の知識と経験を生かして企画・運営しています。従業員のガイドによる森林ハイキングや、森で拾ってきた小枝を材料にした紙づくりなど、参加者が楽しめるように趣向を凝らしています。参加者は一般から公募しており、募集や当日の引率などで(社)日本フィランソピー協会の協力をいただいています。菅沼写有林では毎年継続して開催してきており、2010年10月までの計10回で、一般親子、地元の高校生など計339人が参加しました。

また、2007年からは八代工場を中心に熊本県の豊野社有林で「豊野・森と紙のなかよし学校」を開始し、地域に根ざした活動として毎年実施しています。2010年8月には宮城県佐須浜社有林で「東北・森と紙のなかよし学校」版も開催しました。これらはプログラムのひとつに工場見学を織り込むなど、プログラム構成を工夫しています。



紙すきが終わって記念撮影(丸沼高原)

音楽を通じた教育機会の提供

コンサートへの協賛などを通じて、
良質な音楽に触れる機会を提供しています

日本製紙グループは、芸術に親しむ機会を提供することにより人材育成、地域・文化の発展に貢献し、豊かな社会の形成につながるよう、支援を実施しています。

事例 日本製紙MUSEUM CONCERTへ協賛
(日本製紙(株))

日本製紙(株)は、静岡県立美術館エントランスホールで年4回開催される「日本製紙MUSEUM CONCERT」(主催:静岡新聞社など)に、1991年から協賛しています。



コンサートに出演したオペラ歌手の中島啓江さん(静岡新聞社・静岡放送 提供)

このコンサートは、クオリティの高い音楽を身近に親しむことができるコンサートとして、地元で根強い人気を誇ります。

※「日本製紙MUSEUM CONCERT」は2010年度をもって終了しました

事例 札幌ポップスコンサートへご招待
(日本製紙(株))

2010年7月21日、財団法人札幌交響楽団と北海道新聞社が主催し、日本製紙(株)が特別協賛する「日本製紙 Presents 札幌ポップスコンサート」が開催されました。このコンサートは北海道の文化芸術の支援を目的として開催されています。

日本製紙(株)北海道工場の勇払・旭川・白老の3事



札幌ポップスコンサートに招待した子どもたち

業所では地域の小学生、中学生、高校生、および教員の方々計382人を招待し、オーケストラの魅力を存分に楽しんでいただきました。

教育に関する活動

スポーツを通じた教育機会の提供

スポーツ教室・大会の開催などを通じて、 社会の活性化に貢献していきます

日本製紙グループは、子どもたちがアイスホッケーや野球の一流選手たちから技術を学べるスポーツ教室や大会を開催しています。スポーツを通じて、心身を鍛えながら多くの人と交流できる機会を提供することにより、活力ある社会の実現に貢献していきます。

事例 野球用具を石巻市内の球児へ贈呈 (日本製紙(株))

東日本大震災によって野球用具を失った石巻市内の球児を支援するため、石巻工場硬式野球部では全国の野球関係者に野球用具の提供を呼びかけました。その結果、多くの団体から協力の申し出をいただき、たくさんの用具が寄せられました。



球児と野球部員とのキャッチボール

提供された野球用具は、石巻市野球協会を通じて、市内の少年野球チームに届けられました。

事例 野球教室、野球大会の開催 (日本製紙(株)、四国コカ・コーラボトリング(株))

四国コカ・コーラボトリング(株)は、メインスポンサーになっている四国アイランドリーグplusに所属する監督、コーチによる地域小中学生への野球教室を年間10回程度開催しており、2010年度は704人の少年球児が参加しました。

また、日本製紙(株)岩国工場は、2010年11月6日・7日、「日本製紙杯小学生軟式野球大会」を開催。8回目を迎える本大会では、工場近隣地域の小学校9チーム、約200人が参加し、熱戦を繰り広げました。



バッティングの指導



日本製紙杯小学生軟式野球大会

事例 アイスホッケー教室、アイスホッケー大会の開催 (日本製紙(株))

日本製紙(株)のアイスホッケーチーム「日本製紙クレインズ」では、北海道釧路市内のジュニアチームを対象としてアイスホッケー教室を開催しています。各ジュニアチームの練習に監督・コーチ・選手が数人ずつ参加して直接指導を行います。丁寧でわかりやすい指導は、子どもたち、ジュニア指導者、父兄から好評を得ています。



アイスホッケー教室に参加した子どもたち



日本製紙杯の表彰式

また、小中学生を対象とした「日本製紙杯争奪アイスホッケー大会」を毎年開催しています。30年以上の長い歴史を持つ大会であり、毎年、冷たい氷の上で熱い試合が繰り広げられます。

教育現場への製品提供

地域の教育機関に紙や印刷物を無償供与し、 学習に役立てていただいています

事例 地元の学校へ学生新聞を提供 (日本製紙物流(株))

日本製紙物流(株)は、2007年から本社近隣の学校に毎日学生新聞を無償で供与しています。当初王子小学校と王子桜中学校を対象としていましたが、両校が移転したため、2009年から東京都北区立東十条小学校と東京都立飛鳥高校の2校に提供しています。時事問題をまとめた冊子や英字新聞など、子どもや学生向けに企画された同新聞の発行物は、学習教材としても活用されています。

環境に関する活動

生態系の保護・育成や資源リサイクル、緑化など、
地域・事業所の特性をふまえた環境保全活動に力を入れています

生物多様性の保全

グループの経営資源を活用しながら
希少種の保護・育成に取り組んでいます

事例 「シラネアオイを守る会」の活動を支援
(日本製紙(株)、日本製紙総合開発(株))

「シラネアオイを守る会」は、群馬県のレッドデータブックの準絶滅危惧種に指定されるシラネアオイを保護するために、群馬県立尾瀬高等学校と群馬県利根郡片品村が中心となって、2000年12月に発足しました。

日本製紙グループでは、設立当初から、地元で丸沼高原リゾートを運営する日本製紙総合開発(株)が同会を運営面で支援し、シラネアオイの群生の復元のために日本製紙(株)の菅沼社有林の一部を開放して



植栽の様子

います。

また、2003年からグループ従業員にボランティアを公募し、植栽などの作業活動に参加しています。

リサイクル活動の推進

リサイクルとその啓発活動を続けています

事例 学校給食の牛乳パックでトイレトペーパーを生産
(日本製紙クレシア(株))

日本製紙クレシア(株)では、東京工場のある埼玉県草加市において、小中学校の給食から回収された牛乳パックを再利用してトイレトペーパーを生産し、小中学校へ提供しています。

また、小学校PTAの方々を対象に、リサイクル活動



回収した牛乳パックを前にリサイクルについて説明

への関心をいっそう深めていただくため工場にお招きし、回収されたものから製品になるまでの様子を見学していただいています。

事例 「リサイクルプラザ紙遊館」の運営
(日本製紙(株))

日本製紙(株)北海道工場旭川事業所に隣接する「リサイクルプラザ紙遊館」は、1999年10月20日(リサイクルの日)にオープンしました。古紙の再生工程をわかりやすく紹介するとともに、手すき体験もできるようになっています。すでに延べ94,333人の来館者を数えています(2011年3月末)。

地域に緑を増やす活動

各地で森を育む活動に参加しています

事例 「苗木ホームステイ」の受け入れ
(日本製紙(株))

日本製紙(株)岩国工場は、山口市で開催予定の「第六十三回全国植樹祭」に向けて、「苗木ホームステイ」を受け入れました。「苗木ホームステイ」とは、植樹する苗木の育成をすることで、2010年12月に山口県農林水産部全国植樹祭推進室から竹ポット



届いた苗木と育成担当者

に入ったドングリなどの苗木100本が当工場に届けられました。この苗木は、2012年春の植樹祭開催まで工場構内で大切に育てていきます。

環境教育に関する機会の提供

環境意識を育てる機会を提供しています

事例 地球環境フォーラムの開催
(株)日本製紙グループ本社

(株)日本製紙グループ本社では、地球環境フォーラムを開催し、一般の方や従業員が環境問題を学ぶ機会を提供しています。2010年は、5月に「第3回地球環境フォーラム」を開催し、「土地本来の森づくり」で知られる



講演の様子

宮脇 昭横浜国立大学名誉教授をお招きし、「いのちを守り経済と共生する土地本来の森を」と題した講演会を開催しました。

地域・社会との共生などに関連する活動

事業所をおく各地域で、自治体や地域の方々とともに
清潔・安全で暮らしやすい町づくりや、地域の活性化を図る取り組みを継続しています

地域美化活動

きれいな町の維持に取り組んでいます

日本製紙グループでは、定期的に工場など事業所周辺の清掃活動を実施しています。また、環境月間にあわせた清掃活動や地域清掃イベントへの参加を通して、地域の美化に取り組んでいます。

事例 清掃活動 (日本大昭和板紙(株))

日本大昭和板紙(株)大竹工場では、工場周辺の道路や大竹港などの一斉清掃を2011年6月3日に実施しました。蒸し暑いなかでの作業となりましたが、157人が参加し、約530kgのごみを収集しました。毎年恒例で実施していますが、収集したごみ類は前年よりも65kg多く、ごみを一掃するには、ほど遠い数字です。今後も継続的に清掃活動を実施して地域美化を進めていきます。



工場周辺の清掃活動

地域文化の保全

伝統文化に触れる機会づくりを支援しています

事例 飛鳥山薪能の運営の支援・協賛 (日本製紙総合開発(株))

飛鳥山薪能は、東京都北区で生まれ育った能楽師の故木村薫哉氏が、能楽を通して地元に戻りたいと考え構想した催しです。

毎年秋に、同区の飛鳥山公園内にある野外の舞台で能が演じられます。日本製紙総合開発(株)は、地元企業としてこの催しに協賛するとともに、会場案内などにも協力して運営を支援しています。



繰り上げられる能舞台

地域の安全・防災

地域の安全・安心を目指した取り組みを進めています

事例 「こどもSOS」の防犯ステッカー (四国コカ・コーラボトリング(株))

四国コカ・コーラボトリング(株)およびそのグループ会社では、社会に潜んでいる危険から子どもたちを守るため、市街地を走っているグループの車両約800台に、「こどもSOS」の防犯ステッカーを取り付けています。身の危険を感じた子どもたちを一時的に保護し、必要に応じて警察に連絡するなど、犯罪に



防犯ステッカー

巻き込まれることを未然に防止する取り組みを進めています。

事例 「大規模災害時における相互応援協定」を締結 (日本製紙(株)・日本製紙総合開発(株)・日本製紙物流(株)・日本製紙ユニテック(株))

日本製紙グループでは、拠点ごとに災害時の支援協定を地域との間で締結しています。2009年11月には、東京都北区の王子地区を拠点とする日本製紙(株)研究開発本部、日本製紙総合開発(株)、日本製紙物流(株)、日本製紙ユニテック(株)が他社の12の事業所とともに王子地区防災会議と協定を締結しました。

この協定は、東京直下型地震や集中豪雨など大規模な災害が発生した場合に防災会議と事業所が相互に協力することを定めたものです。救出活動に必要な資機材・応急活動に必要な食糧・飲料水・生活必需品の提供、支援者の派遣、炊き出しなど、可能な範囲での相互協力を定めています。



協定締結式

地域との共生

地域行事への参加や所有施設の開放など、 地域の方々との交流を深めています

日本製紙グループでは、地域に伝わるお祭りなどの伝統行事への積極的参加や体育館やグラウンドなど会社が所有する厚生施設の一般への開放などを通して、地域の方々との交流を積極的に深めています。また、お祭りなどの伝統行事への参加は、文化の継承や地域の活性化に重要な役割を果たしています。

事例 「竹駒神社 秋季大祭」の神輿担ぎに参加 (日本製紙(株))

2010年9月26日、日本製紙(株)岩沼工場従業員60人が、衣・食・住の守護神を祭る日本三稲荷のひとつに数えられる竹駒神社(宮城県岩沼市)の秋季大祭の神輿担ぎに参加しました。

当日は、途中交代を含めながら竹駒神社周辺の4キロメートルを3時間かけて練り歩きました。目的



神輿を担ぐ工場従業員

地となる神社の前では、本宮神輿と4つの小神輿が「セイヤ、セイヤ!」と掛け声を合わせて練り歩き、無事に奉納することができました。

事例 くま川祭り・市民総踊りへの参加 (日本製紙(株))

日本製紙(株)八代工場は、2011年8月6日に開催された「くま川祭り・市民総踊り」に参加しました。本番1週間前から昼休みを利用して練習を積み重ね、参加した171人で元気のある踊りを市民の皆さま



くま川祭り・市民総踊り

に披露することができました。八代工場の踊りは、祭のポスターにも掲載されるほど市民の皆さまにも好評でした。

社会福祉

福祉活動に参加しています

事例 養護学校の学園祭にボランティア参加 (日本製紙ケミカル(株))

毎年秋に行われる、島根県立江津清和養護学校の学園祭にボランティアとして参加しました。学園祭では、生徒たちが作成した絵画、書道、生け花、陶芸などが展示されたほか、職員やボランティアが食べ物の屋台を運営しました。日本製紙ケミカル(株)江津事業所のボランティアは、コーヒーやジュースなどの飲料を販売する屋台を担当しました。



飲料販売を担当した従業員

この学園祭は地域行事のひとつとして定着しており、今後も地域との交流を深めていきます。

藤原科学財団への支援

科学技術の振興を支援しています

藤原科学財団の「藤原賞」は、日本のノーベル賞ともいわれ、科学技術の発展に卓越した貢献をした日本の科学者を顕彰するものです。創設者の藤原銀次郎翁が日本の科学技術の振興に貢献してきた精神を受け継ぎ、日本製紙(株)は財政的な支援を続けています。

2011年6月に表彰式が行われた「第五十二回藤原賞」では、東京大学工学院工学系研究科教授の十倉好紀工学博士と相田卓三工学博士に、賞状と金メダル、そして副賞の1,000万円がそれぞれ贈られました。



藤原賞贈呈式